

令和6年度版「学力向上ポータルフォリオ(学校版)」【美園南中学校】

⑥	次年度への課題と授業改善策
知識・技能	個々の生徒の持つ学習課題をより詳しく分析し、それに基づく支援体制の充実が挙げられる。知識・技能に関して、基礎的な定着だけではなく、それを応用し新たな局面で活用できる力をいかに育成していくかが鍵と考える。これについては、ICTを活用しながら個別最適化学習・自由進度学習を進め、個に応じた指導の細分化を目指す。また、問いに対する無回答が起きないように知識・技能の定着はもちろんのこと、取組の姿勢や時間配分等についても触れていく。
思考・判断・表現	複雑な問題に対して多角的な視点を持つことができる力を育てることが重点である。様々な場面でのアウトプットの機会を増やし、論理的思考を鍛えるとともに、プレゼンテーションやレポート作成などを通じて、効果的な情報表現技法を身に付けさせる。また、これらの活動を通して、生徒間での意見交換やフィードバックの文化を育むことで、他者から学び、自ら考える力をさらに伸ばしていくことを目指す。

今年度の課題と授業改善策		
	学習上・指導上の課題	授業改善策【評価方法】
知識・技能	【学習上の課題】 教科や学年によって、定着度に差が見られる。また、自らの学びをメタ認知し、自己調整していく力が弱い。 【指導上の課題】 生徒が主体となり、個に応じた内容を学習する授業展開とそのファシリテートができていない。	⇒ 教師主導のインプットさせる授業・場面と、主体的に学習に取り組むアウトプットの場面の多い授業の比率をアウトプットに寄せる。 基本的な知識はICTを効果的に用いた家庭学習で身に付けるよう指導する。その際、デジタル教材を用いて、知識のインプット、反復・習熟を図る。
思考・判断・表現	【学習上の課題】 複数の知識や技能を組み合わせて表現すること。また、思考力を問う問題への取り組み状況に二極化が見られる。 【指導上の課題】 インプットさせる授業展開の時間比率が多い。また、取り組み状況を見とり、評価できていない。	⇒ 表やグラフの特徴や傾向から、言葉や数を用いて表現する活動の場を意図的に設定する。 単元や章、節ごとの学習の区切りにおいて、自分の言葉で学習内容・取り組み状況をまとめ、整理する。

⑤	評価(※)	授業改善策の達成状況
知識・技能	B	① 教師主導のインプット時間の削減を図り、生徒が主体的に参加できるアウトプットの場を多く設けた。その結果、自分自身の学びを整理し、適切に表現できる生徒が増加したことがスクールダッシュボードの傾向からも確認できることがある。ICTの導入は基礎知識の定着と習熟において効果的であり、生徒一人ひとりの学習状況を把握するための見取りを強化することが次の課題である。
思考・判断・表現	B	② 授業内容に即して振り返りやテストを活用することで、生徒自身が学習内容を整理し、次のステップへとつなげる姿勢が浸透しつつある。しかし、自治的に学ぶ姿勢を育成するための一層の指導が求められる。授業内でのディスカッションやグループワークを増やし、子に応じた自由進度学習から、考察力や表現力のさらなる向上を目指す必要がある。

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	R6年度全国学力・学習状況調査の「知識・技能」において、全国の結果と比較し、国語+4.5pt、数学+9.4ptであった。国語において、「我が国の言語文化に関する事項」が全国平均に比べ-2.4ptと課題がある。数学ではどの領域でも全国平均を上回る正答率であった。 特記すると、国語においては、「表現の技法についての理解度」に課題がある。方策として、多様な文章や文学作品を教材として表現技法を教え、また定期的に作文課題をだし、フィードバックを行い、技法習得を促す。数学においては、「文字を用いた式で表し説明すること」の理解度が非常に高いことが伺える。
思考・判断・表現	国語においては、特に「必要に応じて質問しながら話の内容を捉えることができるかどうか」問う問題に得意な傾向があり、強いというならば「短文の内容について、描写を基に捉えることができるかどうか」問う問題には伸びしろがある。数学においては、思考・判断・表現のすべての問題で全国平均を上回る正答率であった。特に「目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明すること」に長けており、強いというならば、「複数の集団のデータの分布を、比較して読み取り、判断の理由を数学的表現を用いて説明すること」に伸びしろがある。

- ①結果分析(管理職・学年主任等)
- ②詳細分析(学年・教科担当)

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	第2学年では、どの教科でも、市の平均を上回ることができた。 一方で、第1学年では、概ね市の平均であった国語と社会、下回っている教科として数学があった。理科は比較的得意な傾向が窺われる。 それぞれの学年で、無回答率の高い問題もあった。
思考・判断・表現	第2学年では、知識・技能と同様に、どの教科でも、市の平均を上回ることができた。特徴として、知識・技能の+ポイント数と同様な値が思考・判断・表現でも見られる中で、理科においては、+ポイント数が少ない傾向にあった。 第1学年では、2分化された値が得られ知識・技能で上回っていた国語と社会は下回り、一方で数学がプラスの値が得られた。理科は同様にプラスの値が得られている。

③	中間期報告		中間期見直し
	評価(※)	授業改善策の達成状況	授業改善策【評価方法】
知識・技能	B	生徒がアウトプットする場面の比率が多い授業を行い、自分に必要なことを考え学習に移すことのできる生徒が増加した。 ICTを活用し基礎的な知識を身に付けるよう指導を行っているが、生徒の学習状況を把握し適切にフォローできるような指導を行っている。	変更なし
思考・判断・表現	B	授業内容に合わせて、適切に生徒の振り返りやテストを活用することで、生徒の学習内容・取り組み状況を整理・調整させることができていく。自己の振り返りをSSSPで統計的に分析するための時間を設定しているが、各教科で意思統一を図り、学校全体で共有し、取り組んでいく。	変更なし

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)